

リウマチ膠原病内科

a. 体制

（１）リウマチ膠原病内科の目標：

我々の科では個々の患者さんの直面する問題を真剣に取り上げ、分析し、十分な説明と同意のもとでエビデンスに基づいた最善の治療を行うことを理念とする。

リウマチ膠原病は同じ診断名でも患者さんひとりひとりで病気の活動後が違い、侵される臓器の種類およびその障害の程度が違います。また、患者さんの社会的立場も違います。患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。

患者さんのよきパートナーとなれるかが重要です。信頼できるパートナーとなれるよう努力します。

「患者さんに問題点を見つけ、それを解決するために研究心をもって活動する」という原点のもと、臨床研究を実行する。

（２）リウマチ膠原病内科の方針および展望：

地域の先生方と連携を密として、大阪北地域のリウマチ膠原病医療の核となれるよう努力する。これまで同様、京都大学臨床免疫学教室との臨床検討会および臨床研究を推進する。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。特に、新しい治療法の個人適応には充分のエビデンスの検討とインフォームドコンセントを得ることが前提です。

（３）リウマチ膠原病内科の対象疾患

関節リウマチ/悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎など）、ベーチェット病、シェーグレン症候群、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、などを対象としている。

（４）教育

当院は日本リウマチ学会教育施設として認定されている。井村および中島は日本リウマチ学会専門医・指導医であり、日常の診療、定期的なカンファレンスを通じて研修医、学生の教育を行っている。井村は京都大学医学部臨床準教授であり、京都大学より教育研修を受け入れている。

（５）リウマチ膠原病教室の開催

2006年よりリウマチ膠原病教室を開催し、リウマチ膠原病疾患およびその治療に関する基礎的および最新の情報を患者さんに伝える機会を設けている。残念ながら2020年度以降、新型コロナウイルスの影響により開催できていない。

（６）院外活動および地域医療との係わり：

大阪バイオリジックフォーラムを2007年より開催し、生物製剤への理解を深める機会を作っている。
2024年度は2025年1月18日に第18回大阪バイオリジックフォーラムを開催した。

（7）スタッフ 2024年度

主任部長 井村 嘉孝

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医，日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 中島 俊樹

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本リウマチ学会専門医・指導医・登録ソノグラファー
専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

医員 大北 莉奈

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

医員 福村 真綾

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 田村 汐里

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 青木 一将（大阪赤十字病院より連携研修として1年間所属）

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 望月 俊吾

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

b. 診療実績

（1）外来診療体制（2024年度）

当科の外来は予約診と初診・当日診の2診療制である。受診者数は一日約64名であった。

（2）外来診療統計（2024年4月1日より2025年3月31日）

外来受診者数（のべ数）15,554 名，月平均 1,296 名

初診者数 958 名，月平均 80 名

（3）入院診療実績（2024年4月1日より2025年3月31日）

入院は主として全身性エリテマトーデス，関節リウマチをはじめとする膠原病に対して治療を行い，
2024年度入院患者数は 372 名（他科からの転入含む），平均在院日数 15.3 日

2024年度の主な入院は：

関節リウマチ 56名，全身性エリテマトーデス 35名，多発性筋炎・皮膚筋炎 44名，強皮症 22名，混合

性結合組織病 6名, 血管炎症候群 60名, シェーグレン症候群 11名, 抗リン脂質抗体症候群6名, ベー
チェット病 6名, リウマチ性多発筋痛症 14名, 成人スチル病 12名, 脊椎関節炎 2名, 結晶誘発性関節
症 2名, IgG4関連疾患 6名, など.

c. 研究実績

(1) 研究

- 1 抗MDA5陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎に対する3剤併用寛解導入治療レジメンの有効性と安全性につ
いての長期観察研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 2 自己免疫性筋炎の診断
(井村嘉孝)

(2) 学会

- 1 田村 汐里, 岩阪 晋吾, 麥谷 道生, 船曳 正英, 中島 俊樹, 高橋 令子, 井村 嘉孝 繰り返す冠動
脈狭窄を契機に高安動脈炎と診断した一例 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024/4/18-
20(兵庫)
- 2 望月 俊吾, 木下 慶一郎, 中島 俊樹, 井村 嘉孝 掌蹠膿疱症性骨関節炎と類縁疾患 ゴリムマブ
が奏効した成人発症慢性再発性多発性骨髄炎の1例 第68回日本リウマチ学会総会・学術集会
2024/4/18-20(兵庫)
- 3 望月 俊吾, 中島 俊樹, 赤津 希海, 建部 軌良, 大角 翔太, 小倉 愛子, 井村 嘉孝 抗MDA5抗体陽
性皮膚筋炎に対す多剤免疫抑制療法後に中枢神経原発悪性リンパ腫が生じた一例 第33回日本リウ
マチ学会近畿支部学術集会 2024/9/7-8(兵庫)
- 4 田村 汐里, 福村 麻綾, 船曳 正英, 望月 俊吾, 青木 一将, 大北 莉奈, 中島 俊樹, 井村 嘉孝
シェーグレン症候群および関節リウマチに合併した過粘稠症候群の一例 第33回日本リウマチ学会
近畿支部学術集会 2024/9/7-8(兵庫)

(3) 論文

(原著論文)

- 1 Watanabe T, Taniguchi M, Ogura S, Asou M, Takayanagi S, Sokai Y, Tsuji Y, Mori KP, Endo
T, Nakajima T, Imura Y, Tsukamoto T*. Effectiveness and safety of plasma exchange for
anti-MDA5 antibody-positive clinically amyopathic dermatomyositis with rapidly
progressive interstitial lung disease refractory to intensive immune suppression
therapy: A case series. Ther Apher Dial. 2024 Jun;28(3):432-441. (査読有り)